

為替週間展望 = ドル円は底堅い流れを継続か

[10月12日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		10月5日～10月9日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	105.34	106.11(7)	105.28(5)	105.93	+0.64
ユーロ・ドル	1.1713	1.1808(6)	1.1707(5)	1.1769	+0.0053

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	23,619.69	+589.79	日本10年債利回り	0.031	+0.009
ダウ平均株価	28,425.51	+742.70	米10年債利回り	0.785	+0.085

=====

<来週の主要経済統計等>

- 12日 日本8月機械受注
国際通貨基金 (IMF) と世界銀行の年次総会 (18日まで)
米国はコロンブスデー (米債券市場は休場)
- 13日 中国9月貿易収支
英9月雇用統計
独9月消費者物価指数確報値
独10月ZEW景況感指数
米9月消費者物価指数
- 14日 日本8月鉱工業生産指数確報値
ユーロ圏8月鉱工業生産指数
米MBA住宅ローン申請件数
米9月生産者物価指数
G20財務相・中央銀行総裁会議
- 15日 豪9月雇用統計
中国9月消費者物価指数、中国9月生産者物価指数
スイス9月生産者・輸入価格
米新規失業保険申請件数、米10月NY連銀製造業景気指数
米9月輸入価格指数、米10月フィラデルフィア連銀景況指数
欧州連合 (EU) 首脳会議 (16日まで)
米大統領選候補者第2回テレビ討論会
- 16日 ユーロ圏9月消費者物価指数確報値、ユーロ圏8月貿易収支
カナダ8月製造業出荷
米9月小売売上高
米9月鉱工業生産・設備稼働率
米10月ミシガン大学消費者信頼感指数
米8月対米証券投資

【前回のレビュー】米国株が上げるとリスク回避の動きが後退してドル売り円売りに傾き、米国株が下げると逆にドル買い円買いに傾いて、ドル円は方向感が出にくくなっていく。米国の追加経済対策の協議の進展や米経済指標の動向を眺めながら、ドル円は105円台を中心に一進一退の動きが続くとした。

【米国の追加の経済対策成立への期待感はある】

新型コロナウイルスに感染したトランプ米大統領の早期の退院見通しの報道や米国での追加経済対策への期待感などを背景に5日の米国株は上昇して、NYダウは465ドル高となった。6日にはトランプ米大統領が追加経済対策の協議中止を指示したとの報

道から、N Yダウは3 7 5ドル安となった。その一方で、7日には航空業界や中小企業向けの支援を実施するように求めたことで、N Yダウは5 3 0ドル高となった。8日には経済対策への期待感からN Yダウは1 2 2ドル高。

米国株はトランプ米大統領の言動を受けて、連日のように上下に荒れた展開を見せている。追加の経済対策は協議中止を指示したと報じられるが、大統領選を控えて進展がないようだと自分自身の首を絞めることになる。協議中止の指示は民主党に歩み寄らせるための一時的な方便とみられることもできる。今後は職務に復帰したとされるトランプ米大統領の体調に関する報道やトランプ発言に振り回される展開となりそうだ。

トランプ米大統領は、「議会は航空会社を給与サポートするための2 5 0億ドルと、中小企業のための1 3 5 0億ドルの支援策を直ちに承認すべきだ」と述べており、米国の経済対策は一部が実施されるとの思惑も広がっている。

米国株は日々の動きは大きくなっているものの、大きく崩れているわけではなく、流れとしては上下に振幅しながらも上昇基調で推移している。こうした中、ドル円はやや円売りに傾いており、5日の1 0 5円台前半から、7日には1 0 6円台前半まで上昇した。1 0 6円台乗せの後、1 0 6円を挟んでの振幅を見せている。

このところのドル円の値動きはそれほど大きくないものの、N Yダウの動きと連動しやすくなっている。株高の場合はリスク選好の高まりで円安に振れるケースが多く、株安の場合はリスク回避の動きから円高に傾きやすい。また、1 0月に入ってから米1 0年物国債利回りが上昇傾向にあり、ドル円のサポートとなっている。

1 5日に第2回目の米大統領候補者の討論会が予定されている。討論会実行委員会はオンライン形式で行うと発表した。ただ、トランプ米大統領はオンラインの場合、参加を拒否する考えを示している。トランプ氏は通常通りの形式での開催を強く求めており、実際に開催されるのか、どういう形式になるのかが注目される。

1 1月3日の米大統領選へ向けて、トランプ米大統領が米国株を大きく崩すような動きを繰り返すとは考えにくい。このため、米国株は底堅く推移して、ドル円は大幅な円高に傾くことはないと思われる。ドル円は1 0 6円近辺まで上昇してきており、このまま1 0 7円まで上昇するような勢いはないとみられるが、底堅い流れを継続することになりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、1 0 5 . 0 0 ~ 1 0 6 . 8 0円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、1 2日に日本8月機械受注、国際通貨基金（IMF）と世界銀行の年次総会（1 8日まで）、米国はコロンブスデー（米債券市場は休場）、1 3日に米9月消費者物価指数、1 4日に日本8月鉱工業生産指数確報値、米MBA住宅ローン申請件数、米9月生産者物価指数、G 2 0財務相・中央銀行総裁会議、1 5日に米新規失業保険申請件数、米1 0月N Y連銀製造業景気指数、米9月輸入価格指数、米1 0月フィラデルフィア連銀景況指数、米大統領選候補者第2回テレビ討論会、1 6日に米9月小売売上高、米9月鉱工業生産・設備稼働率、米1 0月シンガン大学消費者信頼感指数、米8月対米証券投資などがある。

【ユーロドルはじり高で推移か】

6日には米国株の堅調さを受けてリスク選好の動きとなり、ユーロドルはドル売りの動きから一時1 . 1 8 0 8まで上昇した。ただ、トランプ米大統領が経済対策の協議中止を指示したことで、株安に転じてリスク回避のドル買いに傾いて1 . 1 7 3 2まで下落した。このところは底堅い動きながらも、1 . 1 7 ~ 1 . 1 8台を中心とするもみ合いが続いている。

米大統領選に向けて米国株が堅調な動きを見せることになれば、リスク選好の高まりからドル売りに傾きやすくなるとみられる。ユーロドルはじり高で推移して、底堅い展開を見せることになりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1 . 1 6 5 0 ~ 1 . 1 9 0 0ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、1 3日に中国9月貿易収支、英9月雇用統計、独9月消費者物価指数確報値、独1 0月Z E W景況感指数、1 4日にユーロ圏8月

鉱工業生産指数、15日に豪9月雇用統計、中国9月消費者物価指数、中国9月生産者物価指数、スイス9月生産者・輸入価格、欧州連合（EU）首脳会議（16日まで）、16日にユーロ圏9月消費者物価指数確報値、ユーロ圏8月貿易収支、カナダ8月製造業出荷などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。